



## 平成26年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年1月10日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 シー・ヴィ・エス・ベイエリア  
 コード番号 2687 URL <http://www.cvs-bayarea.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 泉澤 摩利雄

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役CIO 管理本部長 (氏名) 上山 富彦

TEL 043-296-6621

四半期報告書提出予定日 平成26年1月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年2月期第3四半期の連結業績(平成25年3月1日～平成25年11月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業総収入		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年2月期第3四半期	23,039	13.7	150	—	251	—	168	—
25年2月期第3四半期	20,254	△6.5	△362	—	△378	—	△429	—

(注) 包括利益 26年2月期第3四半期 181百万円 (—%) 25年2月期第3四半期 △356百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年2月期第3四半期	3.41	—
25年2月期第3四半期	△8.70	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年2月期第3四半期	11,180	2,814	25.2	57.02
25年2月期	11,222	2,728	24.3	55.28

(参考) 自己資本 26年2月期第3四半期 2,814百万円 25年2月期 2,728百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年2月期	—	1.00	—	1.00	2.00
26年2月期	—	1.00	—	—	—
26年2月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成26年2月期の連結業績予想(平成25年3月1日～平成26年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	営業総収入		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	30,060	10.6	186	—	207	—	137	—	2.78

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

26年2月期3Q	50,640,000 株	25年2月期	50,640,000 株
----------	--------------	--------	--------------

② 期末自己株式数

26年2月期3Q	1,275,130 株	25年2月期	1,275,130 株
----------	-------------	--------	-------------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年2月期3Q	49,364,870 株	25年2月期3Q	49,364,872 株
----------	--------------	----------	--------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在において入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)P.3「連結業績予想に関する定性的情報」をご参照ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	4
4. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	8
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	9
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	9
(5) セグメント情報等 .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する定性的情報

## ① 当第3四半期連結累計期間の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済対策や金融緩和の効果から円安及び株高が進行し、輸出環境や企業収益の改善が続いたほか、2020年オリンピック・パラリンピックの東京開催が決定し、中長期的な経済効果が期待されております。また、個人消費に関しましては、景気回復への期待感から購買意欲の改善が見られたものの、来春の消費税率引上げが決定したことに伴い、駆け込み需要とその反動減による影響が見込まれることや、家計負担が増すことへの不安感から消費マインドが冷え込むことが懸念されており、実体経済は先行き不透明なものとなっております。

当社のセグメントの業績は次のとおりであります。

## (a) コンビニエンス・ストア事業の概況

コンビニエンス・ストア業界におきましては、大手各チェーンの大量出店が続いているほか、他業界を巻き込んだの淹れたてコーヒーの販売拡大や、ファストフード、PB商品の強化に努めており、全店ベースでの来店客数、売上高は増加を続けております。しかし一方で、タバコ購入者の減少や各社の出店攻勢が続いているほか、9月10日は台風や秋雨前線の影響を受けたこともあり、既存店売上高は11月を除き、前年割れの状況を強いられております。

このような状況のもと、当社グループのコンビニエンス・ストア事業におきましては、昨年3月より開始した「ローソン」ブランドでの店舗運営体制の構築を進めてまいりました。「MACHI cafe」(マチカフェ)ブランドでの淹れたてコーヒーの提供店舗を増やしているほか、「黄金チキン」などのオリジナル・ファストフードの販売や、株式会社ローソンが他社に先駆けて展開している生鮮食品の販売を当社でも積極的に取り組んでおります。また、当社が独自で導入している「クリーニング取次ぎサービス」など、他店舗との差別化となるサービスの提供にも努めております。

なお、当第3四半期連結累計期間における業績は、コンビニエンス・ストア事業収入176億87百万円(対前年同期比17.1%増)、セグメント利益1億63百万円(前年同四半期はセグメント損失2億98百万円)となりました。

## (b) マンションフロントサービス事業の概況

マンション業界におきましては、アベノミクス効果による景気回復基調や東京オリンピック・パラリンピック招致決定などにより、11月度の首都圏での販売戸数が前年同月比で約22%増となり、契約率も79%台と10か月連続で70%を突破しております。また、近畿圏におきましても、販売戸数は前年同月比約5%増で、契約率も76%台と好調を維持しております。

このような状況のもと、当社グループのマンションフロントサービス事業におきましては、従来からのフロントサービス、ショップ、カフェでのサービスに加え、ふとん丸洗いや専有部分のハウスクリーニング、カーシェアリング、ネットスーパーなどのサービスの提供に力を入れております。また、改修によるエレベーター停止時などに活用できる電動式階段昇降機の販売、レンタルや、マンション管理組合を対象とした防災イベントを企画、提案しております。今後も居住者の利便性と快適性に重点を置いたサービスを核に、時代の要請を先取りする独自サービスの開発により、フロントの存在価値の向上に努め、事業の安定拡大に取り組んでまいります。

また、より良いコンシェルジュサービスを提供するため、新たに社外研修を開始したほか、厳選したスタッフを採用する専門チームを設けるなど、基本サービスの品質向上にも引き続き経営資源を投下してまいります。

なお、当第3四半期連結累計期間における業績は、マンションフロントサービス事業収入41億78百万円(対前年同期比3.5%増)、セグメント利益2億48百万円(対前年同期比43.2%増)となりました。

## (c) クリーニング事業の概況

クリーニング業界におきましては、服装のカジュアル化や低価格衣料の浸透、家庭用洗剤や洗濯機が進化したことなどにより、クリーニング需要の減少や洗濯代への出費が絞られる動向が続いており、年々1世帯当りのクリーニング代支出額が減少傾向にあります。

このような状況のもと、当社グループのクリーニング事業におきましては、タワーマンションや高級マンションのフロントでの便利、かつ、高品質な「クリーニング取次ぎサービス」を提供することにより、全国全世界平均よりも高い客単価を得られております。

夏から秋冬へかけての季節の変わり目に合わせた「衣替え応援セール」など、各種販促企画を実施し、需要の喚起に取り組んでまいりました。また、ハウスクリーニングでは、年末の最需要期にむけた「早割りキャンペーン」を行い、顧客の獲得に努めてまいりました。

また、自社工場では、新規物件の増加により売上は順調に推移しておりますが、円安による洗濯溶剤や包装材の仕入価格上昇などにより収益化には時間を要する見込みであります。昨年より稼働を開始した商品管理センターとともにクリーニング、メンテナンス、在庫管理までを一元管理する企業向けのトータルサービスを拡充させ、さらなる収益向上を実現してまいります。

なお、当第3四半期連結累計期間における業績は、クリーニング事業収入9億46百万円（対前年同期比2.7%増）、セグメント利益37百万円（対前年同期比13.7%増）となりました。

(d) その他事業の概況

その他事業におきましては、「日常生活の便利さを提供できる会社になりたい」という企業理念のもと、従来のコンビニエンス・ストア事業だけにとらわれることなく、新しいサービスの提供に努め、各種サービスを通じた便利さの提供を目指してまいりました。

その他事業の一つであるビジネスホテル「CVS・BAY HOTEL」におきましては、JR京葉線の市川塩浜駅に隣接し利便性の高い駅前立地であることや、コンビニエンス・ストアの併設、また宿泊プランの多様化などお客様のご要望に対応した運営に努めたことで、当第3四半期連結累計期間の売上高は対前年同期比23.3%増と順調に推移いたしました。

今後も、宿泊プランやサービス内容をより充実させ、認知度の向上により一層努めることで、客室稼働率の上昇、収益の拡大を実現してまいります。

なお、当第3四半期連結累計期間における業績は、その他事業収入3億75百万円（対前年同期比10.9%増）、セグメント利益86百万円（対前年同期比71.6%増）となりました。

以上の施策の結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間における業績は、営業総収入230億39百万円（対前年同期比13.7%増）、営業利益1億50百万円（前年同四半期は3億62百万円の営業損失）、経常利益2億51百万円（前年同四半期は3億78百万円の経常損失）、四半期純利益1億68百万円（前年同四半期は4億29百万円の四半期純損失）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べて41百万円（0.4%）減少し、111億80百万円となりました。その主な内訳は、現金及び預金が3億98百万円増加した一方、未収消費税等が1億15百万円、有価証券が26百万円減少したことなどにより流動資産が2億10百万円増加し、また、長期預金が52百万円、投資有価証券が21百万円減少したことなどにより、固定資産が2億52百万円減少したことであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べて1億27百万円（1.5%）減少し、83億66百万円となりました。その主な内訳は、買掛金が87百万円、未払費用が1億12百万円増加した一方、未払金が1億22百万円、未払法人税等が31百万円減少したことなどにより流動負債が1億円増加し、また、長期借入金が2億42百万円減少したことなどにより、固定負債が2億28百万円減少したことであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べて85百万円（3.1%）増加し、28億14百万円となりました。その主な内訳は、剰余金の配当を行った一方、四半期純利益を1億68百万円計上したこととであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成26年2月期(平成25年3月1日～平成26年2月28日)の通期連結業績予想につきましては、平成25年10月7日公表の「平成26年2月期業績予想および配当予想の修正に関するお知らせ」の連結業績予想数値から変更はありません。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

### （1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### （2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

（税金費用の計算）

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、見積実効税率を使用できない場合には、法定実効税率を使用しております。

### （3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

（減価償却方法の変更）

当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成25年3月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

なお、これによる当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

## 3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年11月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,613,029	2,011,828
加盟店貸勘定	8,537	6,514
売掛金	443,498	472,057
有価証券	461,806	435,349
商品	524,879	547,631
その他	526,841	315,516
貸倒引当金	△2,051	△2,078
流動資産合計	3,576,542	3,786,820
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	1,050,354	988,889
土地	1,758,928	1,758,928
その他（純額）	59,560	52,312
有形固定資産合計	2,868,843	2,800,131
無形固定資産		
のれん	435,971	387,627
その他	74,377	61,859
無形固定資産合計	510,349	449,486
投資その他の資産		
投資有価証券	218,624	196,926
長期貸付金	5,251	4,438
敷金及び保証金	1,058,755	1,047,662
投資不動産（純額）	2,748,108	2,717,832
その他	240,477	181,628
貸倒引当金	△4,280	△4,100
投資その他の資産合計	4,266,937	4,144,388
固定資産合計	7,646,130	7,394,006
資産合計	11,222,672	11,180,827

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年11月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	258,357	345,677
短期借入金	1,100,000	1,100,000
1年内返済予定の長期借入金	349,992	329,992
未払金	590,418	467,747
未払法人税等	102,379	70,821
預り金	2,052,876	2,108,010
賞与引当金	66,374	37,080
店舗閉鎖損失引当金	130,915	125,670
資産除去債務	39,383	30,515
その他	299,719	475,696
流動負債合計	4,990,415	5,091,211
固定負債		
長期借入金	2,782,550	2,540,056
リース債務	527	270
退職給付引当金	72,268	84,283
長期預り保証金	360,700	355,278
資産除去債務	283,177	289,668
その他	4,165	5,482
固定負債合計	3,503,388	3,275,038
負債合計	8,493,804	8,366,249
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,200,000	1,200,000
資本剰余金	164,064	164,064
利益剰余金	1,512,009	1,581,483
自己株式	△124,261	△124,261
株主資本合計	2,751,813	2,821,286
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△22,944	△6,709
その他の包括利益累計額合計	△22,944	△6,709
純資産合計	2,728,868	2,814,577
負債純資産合計	11,222,672	11,180,827



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年11月30日)
売上高	14,798,703	17,275,372
営業収入		
加盟店からの収入	120,677	154,896
その他の営業収入	5,335,003	5,609,049
営業収入合計	5,455,680	5,763,945
営業総収入合計	20,254,383	23,039,317
売上原価	14,613,878	16,505,649
営業総利益	5,640,504	6,533,667
販売費及び一般管理費	6,003,276	6,383,157
営業利益又は営業損失(△)	△362,771	150,510
営業外収益		
受取利息	395	356
受取配当金	11,551	14,734
有価証券運用益	—	43,259
投資事業組合運用益	548	3,522
不動産賃貸料	263,161	270,107
保険返戻金	2,517	—
その他	35,681	24,507
営業外収益合計	313,857	356,488
営業外費用		
支払利息	47,543	36,115
有価証券運用損	27,018	—
投資有価証券売却損	918	—
不動産賃貸費用	238,445	215,928
その他	15,836	3,757
営業外費用合計	329,761	255,801
経常利益又は経常損失(△)	△378,676	251,197
特別利益		
受取補償金	1,010	—
投資有価証券売却益	—	47,899
負ののれん発生益	10,025	—
債務消滅益	214,527	—
その他	17	—
特別利益合計	225,580	47,899
特別損失		
固定資産除却損	513	8
店舗閉鎖損失	4,631	8,807
店舗閉鎖損失引当金繰入額	244,731	3,825
投資有価証券評価損	191,816	—
減損損失	6,368	16,801
リース解約損	1,806	—
特別損失合計	449,867	29,443
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△602,963	269,653
法人税等	△173,555	101,450
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△429,407	168,203
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△429,407	168,203

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年11月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	△429,407	168,203
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	72,989	13,007
その他の包括利益合計	72,989	13,007
四半期包括利益	△356,418	181,211
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△356,418	181,211

## (3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

## (4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

## (5) セグメント情報等

## I 前第3四半期連結累計期間(自平成24年3月1日至平成24年11月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	コンビニ エンス・ ストア事業	マンション フロント サービス 事業	クリーニン グ事業	その他事業			
営業総収入							
外部顧客への 営業総収入	15,102,889	3,905,053	908,932	337,507	20,254,383	—	20,254,383
セグメント間の 内部営業総収入 又は振替高	—	129,859	13,056	900	143,815	△143,815	—
計	15,102,889	4,034,912	921,989	338,407	20,398,199	△143,815	20,254,383
セグメント利益又は損失(△)	△298,427	173,212	32,583	50,590	△42,040	△320,731	△362,771

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△320,731千円には、セグメント間取引消去10,952千円及び、各報告セグメントに配分していない全社費用△331,684千円が含まれております。全社費用は、主に管理部門の人件費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性が乏しいため記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な変動)

重要性が乏しいため記載を省略しております。

(重要な負ののれん発生益)

重要性が乏しいため記載を省略しております。

## II 当第3四半期連結累計期間(自平成25年3月1日至平成25年11月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	コンビニ エンス・ ストア事業	マンション フロント サービス 事業	クリーニン グ事業	その他事業			
営業総収入							
外部顧客への 営業総収入	17,687,341	4,045,988	931,560	374,427	23,039,317	—	23,039,317
セグメント間の 内部営業総収入 又は振替高	—	132,111	14,931	900	147,943	△147,943	—
計	17,687,341	4,178,100	946,491	375,327	23,187,261	△147,943	23,039,317
セグメント利益	163,150	248,056	37,042	86,818	535,069	△384,558	150,510

(注) 1 セグメント利益の調整額△384,558千円には、セグメント間取引消去5,971千円及び、各報告セグメントに配分していない全社費用△390,530千円が含まれております。全社費用は、主に管理部門の人件費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「コンビニエンス・ストア事業」セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては16,801千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。